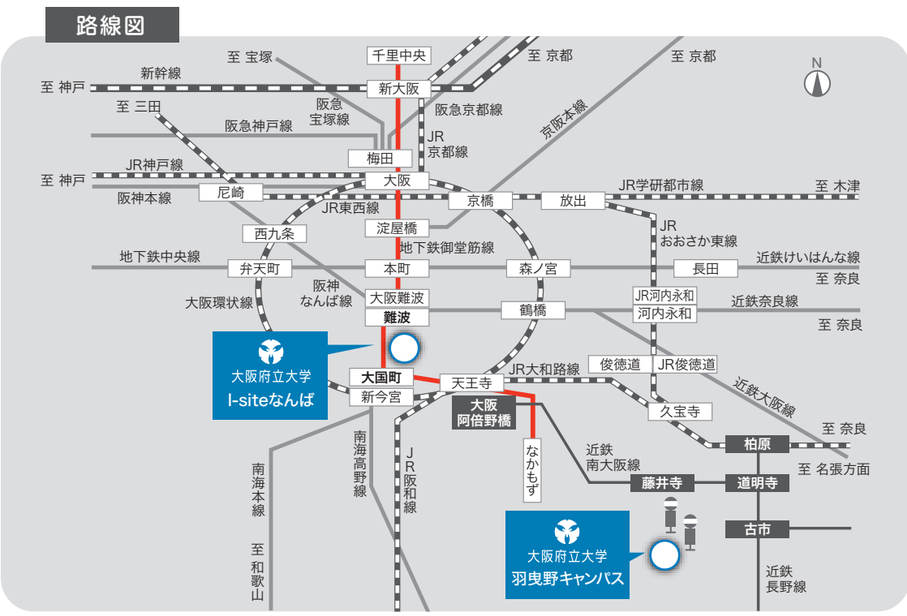
アクセスマップ

路線図



I-site なんば

羽曳野キャンパス

公立大学法人
大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

地域保健学域　総合リハビリテーション学類
大学院　総合リハビリテーション学研究科

【事務局】
コア・プロジェクト（在宅ケアを支えるリハビリ専門職の育成事業）
大阪府立大学大学院　総合リハビリテーション学研究科　内
〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの3-7-30 D508
TEL. 072-950-2111（内線3031）

掲載している情報は2015年2月1日現在のものです。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK

在宅ケアを支える
リハビリ専門職の
育成プロジェクト
Human resource development project for COmmunity REhabilitation Specialist

コアプロ　府大

公立大学法人
大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

平成26年度　文部科学省
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」選定事業

在宅ケアを支える リハビリ専門職の 育成プロジェクト

在宅ケアを支える
リハビリ専門職の
育成プロジェクト

Human resource development project for COmmunity REhabilitation Specialist

大阪府立大学

本事業は文部科学省の選定を受けた課題解決型高度医療人材養成プログラムです。

在宅ケアで活躍できる理学療法士・作業療法士の人材育成をめざして。

プログラムの概要

現在、日本では地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅医療・介護が推進されているところです。

そのような中で、理学療法士や作業療法士といったリハビリテーションの専門職が、在宅ケアという新たな舞台で必要とされつつあります。

本事業では、そのような社会的ニーズに応えるべく、在宅リハビリテーション技術に加え、医療と在宅ケアのネットワーク化を促進できる人材育成の強化を図ることを主な目的としています。

本事業の柱は、以下の2本のプログラムです。

1. 現職者教育プログラム

大学院総合リハビリテーション学研究科に、履修証明プログラムとして「地域リハビリテーション学」コースを新設し、履修者の理学療法士・作業療法士の専門職としてのスキルアップを図ります。また、病院等医療機関と在宅ケアとの連携を理解・推進するための知識修得を促します。

プログラムの目的

履修証明プログラムは、社会人の多様なニーズに応じた、様々な分野の学習機会を提供することなどを目的に、2007年の学校教育法の改正によって設けられた「履修証明制度」を活用した学習プログラムで、以下のような特徴があります。

1. 再就職やキャリアアップに役立つ、社会人向けの教育プログラムです。
2. プログラム修了者には学校教育法に基づく履修証明書が交付されます。

2. 学士課程教育プログラム

学士課程教育プログラムは講義と実習から成り、在宅ケアの対象者の障害像および生活を知り、在宅リハビリテーションにおける理学療法士・作業療法士の役割を遂行できる人材の育成を図ります。

学生は、在宅支援に関わる理学療法士・作業療法士の臨床実習指導者を講師とした「在宅リハビリテーション論」にて知識・技術を修得し、訪問事業所や通所施設等における「在宅リハビリテーション実習」を通じて実践的技術の修得と対象者の実像を理解します。

プログラムの最終的な目標

患者と医療情報が円滑に循環する「医療・在宅ケア 大阪モデル(仮称)」の構築にあります。医療と在宅ケアの連携体制作りという概念を学んだ現職者と、在宅ケアの概念・技術を修得した新人(新卒者)を輩出することによって、在宅ケア情報共有システムという新しい制度の定着を目指します。

プログラムの紹介

現職者教育プログラム

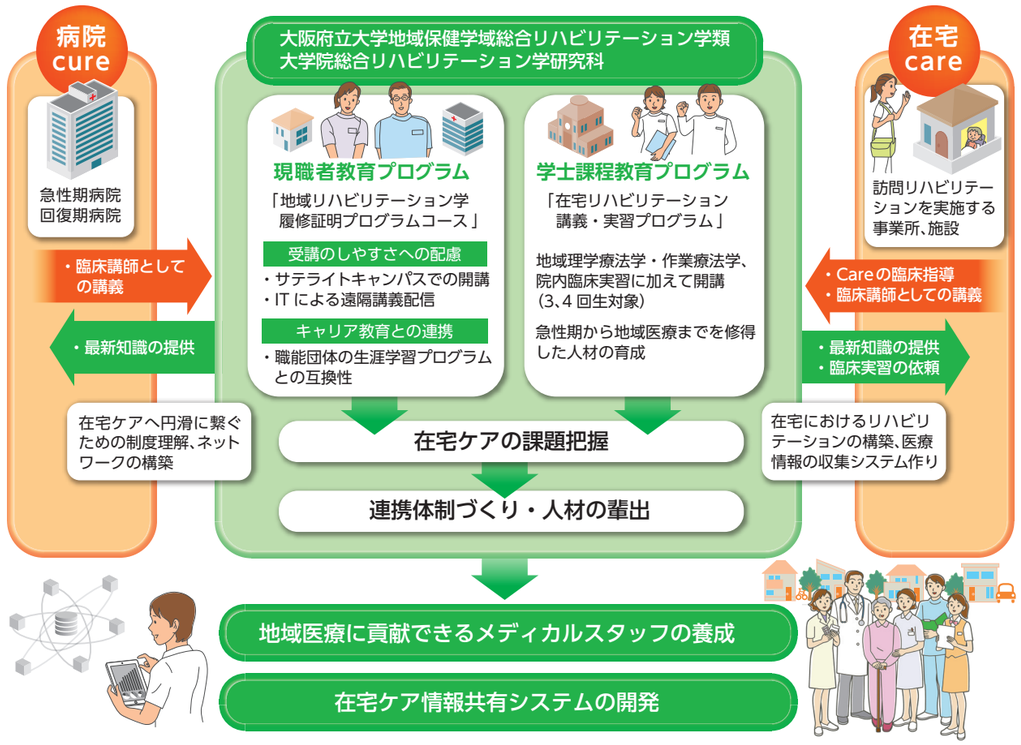
全8講座から成るカリキュラム概要は、以下を予定しています。病院と在宅ケアの連携を理解・推進するための知識修得をめざす4講座として、「医療・保健・福祉をめぐる社会動向」「在宅医療におけるICT活用の倫理」「マネージメント学」「社会資源の活用」、専門職としてのスキルアップを図る4講座として、「生活期の疾病理解」「在宅医療・終末期医療」「在宅ケアにおける予後予測」「訪問リハにおけるリスクマネジメント」を開講します。また、本プログラムの修了証(履修証明書)は、理学療法士・作業療法士の各職能団体による生涯学習プログラムとの互換性を有し、キャリア教育との接続性があるものです。

働きながらでも受講しやすい環境を提供するため、e-learning講義と交通至便なサテライト教室(I-siteなんば)でのスクーリングで構成する予定です。加えて、受講生には通信環境を備えた情報端末(iPad)を貸与し、遠隔での学習環境を整備します。

学士課程教育プログラム

Ⅰ. 在宅リハビリテーション論は3年次生を対象に、1. 接遇とリスクマネジメント、2. ポジショニング(拘縮予防と易動作性確保)、3. 呼吸・嚥下障害への支援、4. 家族介護者への健康支援(介助動作時の姿勢・福祉用具の活用法)を開講します。

Ⅱ. 在宅リハビリテーション実習は4年次生を対象に、訪問事業所、通所施設、就労支援事業所等における実習を実施します。



教員メッセージ

在宅ケアを支えるリハビリ専門職の育成プロジェクトの推進

本学プロジェクトは、学士課程の教育プログラムと現職者に対する教育プログラムから成り、在宅ケアを支え、地域包括ケアシステムの構築に寄与できる理学療法士と作業療法士の育成を目指しています。

高畑 進一 大学院総合リハビリテーション学研究科長／総合リハビリテーション学類長

在宅ケアを支えるリハビリ専門職の育成(CORE)プロジェクトの開始にあたって

本事業は、患者と医療情報が病院と在宅との間で円滑に循環するためのネットワーク構築を、他職種と連携しながら促進できる理学療法士・作業療法士を育成するプログラムです。地域社会に貢献を果たすよう、大学全体で取り組みます。

樋口 由美 総合リハビリテーション学類理学療法学専攻事業統括リーダー

在宅ケアで活躍できる理学療法士・作業療法士の人材育成を目指して

包括ケアシステムの構築に向けて在宅医療が推進される中、在宅ケアで活躍できる理学療法士・作業療法士の育成を目指します。現場の課題に即した教育内容の作成・実施・改訂において、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

西川 智子 総合リハビリテーション学類作業療法学専攻事業統括副リーダー

多様な学習環境で受講を支援します

医療と介護の切れ目のない連携を実現できるリハビリテーション専門職の育成をめざすプログラムですので、現職の理学療法士・作業療法士の皆さんが、働きながら無理なく受講できるような学習環境の整備を進めています。

淵岡 聡 総合リハビリテーション学類理学療法学専攻長